

台風19号災害は他人ごとではない

大型で強い台風19号は千曲川を始め全国各地の河川で決壊し、大きな洪水被害をもたらしました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。

今回の千曲川地域の降雨量は1日で300ミリを超えました。今回の台風19号が、もし大北地域を直撃していた場合も、ほぼこれに近い浸水状況即ち、今回の長野市並みの浸水状況になる恐れがあります。

長野県は高瀬川で考えられる最大の雨（2日間で746ミリ）が降った場合の浸水する区域図（



内鎌 霞堤

（以降、新たな浸水想定区域図）を近く発表します。それによると、池田町平坦部の大部分が建物一階部分まで浸水状態になると言われています。

洪水が予想される場合は早めに安全な場所に避難することが大切です。

町は、新たな浸水想定区域図に基づき土砂災害も含めハザードマップを作る予定です。それを見て安全な場所を確認しておきましょう。

避難先は町の避難所、安全な地域の親戚・友人宅などが考えられます。私たち一人ひとりがどこに避難するかを考え、自主防災会ごとにまとめ、町に報告し、町は集計し、ソフト・ハードの避難対策を検討すべきと考えます。

ソフト対策としては町外に避難する広域避難、ハード対策としては避難施設の設定も検討すべきかと思っています。高瀬川の堤防には霞堤（かすみ

い）があり、大雨が降った場合は出水する（洪水となる）構造となっています。

高瀬川を管理する長野県に降雨量と霞堤からの出水の関係

花とハーブの里の顔 ハーブセンター 公募決まったけれどこのままでいい？

9月の町議会本会議をネット中継で見た友人が「なんで公募しないんだ？」と疑問の声を上げました。町はハーブセンターの指定管理を指名にするといったのです。

去年の公募の方針を変えた理由が分かりません。しかし友人のように愚痴を言ってるだけでは解決になりません。そこで、町に分からないことを聞き、同時に積極的な提案をする「池田町の未来を考える会」を立ち上げ、さらに、なんと町に要望書を出してしまいました。

趣旨は要望書の「ハーブセンターの公募」を前提に

○町としてのハーブセンターの位置づけや方針の説明とそれに基づく総括。○地域循環

を明確にしてもらい、早めの避難に結びつけることが大切だと思います。

薄井孝彦町議会議員

ハーブセンター

型消費の拠点として、地元生産者、工房、JAなどの協働の仕組みづくり。○地元住民や町外来訪者にハーブの町をアピールすると同時に、利用者目線の管理運営。○指定管理料の情報開示ほか、議会で承認された、町直営の東側の運営方針につき町民との話し合いの場を持つてほしいなど、提案を含めたものです。町の返事は10月21日現在まだありません。

議員協議会では、ハーブセンターの在り方が論議されることも無く、公募賛否の採決で公募に決まっただけでした。「もっと議論しなくちゃな」とは私たちの会以外の傍聴者。全く同感です。

豊町 曾根原鈴美

水害現場を視察

武田良介参議院議員のHP

飯山市では、中心商店街が浸水。今日はゴミ出し、泥の掻き出しなどの作業をされていました。

原因は、やはり千曲川にそそぐ皿川から、千曲川に流れきれず、皿川で越水。堤防がきれての被害でした。決壊はJR飯山線の橋脚部。

中野市でも、千曲川の立ヶ花狹窄部近くから越水。約140戸の浸水被害があります。

えのき茸の生産で全国的なシェアのある中野市ですが、キノコ生産の現場も被災ありとのこと。この災害をきっかけに廃業する、などということにならないよう支援を強めなければなりません。



10月からの社会保障関係 連続。パンチ

75歳以上の低所得者 医療保険料三倍化

10月1日から消費税が10%になりました。安倍政権は「福祉と子育て支援のために必要」と主張し税率を引き上げたのですが、その中身をよくみると、経済的弱者に追い打ちをかける内容がたくさんあります。特に高齢者には負担が重くなります。

後6年、団塊の世代全員が後期高齢者（75歳）になる2025年には、医療費、介護費などが過去最大となるので、今から国の負担を減らして高齢者に負担してもらうというものです。

高齢になればあちこちが悪くなってお金がかかるのは当たり前前です。



消費税を上げながら、社会保障を削減する、国の施策には何としてもストップをかけなくてはいいけません。

後期高齢者医療制度

後期高齢者医療制度（75歳以上）では10月から年金収入が年80万円以下の低所得者（約378万人）に対して保険料を9割軽減している特例措置を廃止しました。

低所得者も7割軽減に引き下げられ、保険料は3倍化。年額で平均1万3500円（20年度）に跳ね上がりま

す。代わりに「年金生活者支援給付金」の支給や介護保険料の軽減が行われますが、低所得者ほど負担が重い消費税増税とセットです。

年金生活者支援給付金は、基礎年金（国民年金）の満額11年78万円以下などの低所得者を対象として基礎年金の加入期間に応じて支給するため、同期間が10年の人は月1250円、年1万5千円しか

60歳まで40年分を完納して

も、基礎年金と合わせて最大で月約7万円だけです。そのうえ、政府は年金支給額の実質削減をすすめています。

介護保険料

介護保険料の軽減も低所得者が対象で、基礎年金満額のみが収入の単身世帯は月880円減となります。

しかし、保険料自体は右肩上がりです。現在の平均保険料は月5869円で、制度創設時から2倍化。25年には月平均8千円超に引き上げられる見込みです。

政府はわずかな拡充を“改革”だと誇って見せますが、消費税増税が生活悪化に追い打ちをかけるのは必至です。

医療保険料

医療保険料の引き上げが繰り返され、滞納者は近年20万人以上で推移。有効期間が短い保険証にされた滞納者は2万人を超えています。医療にかかりづらくなれば重症化を招きます。

生活保護

安倍政権は国民の生存権を守る「最後の砦」である生活

秋の親睦旅行

奈良井宿へ行ってきました

保護を連続改悪しています。

現在は、食費や光熱費など日常生活に充てる生活扶助の支給基準を、18年10月から3年間かけて引き下げている最中で、10月から第2弾が発動

10月16日、ファンクラブ主催の親睦旅行に21名の参加がありました。

江戸時代に京都と江戸を結んだ中山道の、ちようど真ん中に位置する場所にある日本最長の宿場町「奈良井宿」へ行ってきました。

情緒ある町並みは宿場時代そのままの老舗旅館や千本格



子の家々が残っています。

観光ガイドさんの案内で1時間宿場を回りました。歴史ある神社や水場（6か所）など、江戸時代の面影があちこちにありました。

宿場内は車輛は通行禁止なのですが、地元車のみ通行可とのことで、結構車が来ました。生活しているので必要なのですね。

昼食は食事処「こころ音」で、天ぷら、あえ物、蒸し物、ソバ、五平餅などとてもおいしかったです。ちなみに料金は1,500円。

その後は三々五々散策や買い物。私もいろいろ買いました。また来年も計画しますので大勢の参加をお願いします。3丁目 山本久子